

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	岩倉市子ども発達支援施設あゆみの家		
○保護者評価実施期間	2026年3月1日 ～ 2026年3月25日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14 (回答者数)	14
○従業者評価実施期間	2026年3月26日 ～ 2026年3月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年6月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	我が子の良いところ、成長に着目できる。	・子どもが楽しいと思える療育を心掛ける。 ・一人ひとりの子どもの変化に気づいて褒める。 ・子どもの当たり前の姿も今までの成長として認め褒める。そして、子育てをしてきた母をねぎらう。 ・共に過ごす保護者の気持ちにも寄り添う。	・一人ひとりの子どもの興味関心に合わせた遊びや環境を作る。 ・親も子もホッとできたり、安心して過ごせる場所であるよう職員間で努める。 ・職員一人ひとりの資質向上を目指し、研修に参加したり、報告し、学び合い支援に活かす。
2	保護者同士が交流し、子育ての工夫を共有し、育て合う。	・母親教室など保護者同士交流できる機会をつくる。 ・保護者の発信を大切にする。保護者の話に傾聴する。 ・OB保護者に会える機会を作っている。 ・親子で登園してくれたことをねぎらう。	・保護者同士や職員との何気ない会話も大切にしていける。 ・OBも来援しやすい場所にする。 ・今後も丁寧に保護者が今やっていることを言語化し、母に子育てへの自信に繋げる。
3	公立保育園との交流	・6月から交流できることをお知らせし、希望する保護者がいれば、職員が園側と日程調整をする。初回は職員が同行する。	・地域の子どもでは体験できない、実際に保育園で過ごしている同じ学年の子どもたちと共に活動する機会であることを知らせていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・自家用車がないと通いづらい。	・市の中心に位置していないため。	・送迎サービスがある。
2	・弟妹児（1歳の誕生日月の翌月から）を連れて通えない。	・療育を受ける子と保護者との双方のやりとりを重視しており、1歳過ぎた下の子の面倒を見ながらだとしっかりと療育を受けることが難しいと考えるため。 ・託児をするための部屋がない。	・託児ができる部屋と託児のための人員配置。
3	・施設の老朽化	・親子が過ごすフロアは明るくてバリアフリーで過ごしやすいが、トイレや廊下が暗くて寒い。	・令和9年度に隣接する保育園と共に新園舎になる予定である。